

学校名	学校法人岩尾昭和学園 昭和学園高等学校
-----	---------------------

平成27年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成

－ 5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート －

2. 研究の目的

社会で看護師として働く為には、基礎学力、専門知識技術とそれらを生かす能力「社会人基礎力」が必要となる。豊かな人間性や基本的な生活習慣は、全ての基盤であり、様々な経験や活動を通して、相互に影響し合いながら高まっていくものである。5年一貫の看護教育を通して、高校生が主体的に学び、専門性と社会性を身に付け、人間として成長できるよう支援するプログラムの開発。

3. 実施期間

契約日から平成28年 3月15日まで

※最長で当該年度の3月15日（3月15日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

4. 当該年度における実施計画

本校は、普通科・調理科・福祉科・看護学科と全ての学科において、創立以来の宗教的情操教育を原点に心の教育を実践し、三綱領「努力精進、明朗融和、感謝奉仕」を基本とし、時代にふさわしい人材の育成に取り組んできた。

今回の研究対象は、看護学科である。生徒・学生は目的意識を持って入学しても、学年進行に従い学習量の多さや難しさが負担となり、「やらされ感」を感じ進路変更に至ることもある。また、社会人としてのマナーやメンタル面の弱さを指摘されることもある。地域唯一の看護師養成校であり、看護師国家試験合格のみでなく、多様な対象者に対応できる社会人基礎力を備えた人材の安定的な輩出を期待されている。

本研究では、地域社会に貢献できる看護師を育成するために、「豊かな人間性」「課題解決能力」「社会人基礎力」の育成を3つの柱で教育し、高校生の人間としての成長をサポートすることが目的である。看護師として働くために必要な能力は、教員により捉え方が異なる。そこで、今回、経済産業省より発表されている「社会人基礎力」に注目した。社会人基礎力とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義されている。今回の研究では、地域社会に貢献できる看護師とは、社会人基礎力が備わった状態と考える。そのために、5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポートするため、社会人基礎力が備わるための取り組みを実施し、終了後は評価を行い、有効性を検証していく。

－ 育成する人材像／目標 －

1. 文化や価値観等の多様性を理解し、豊かな人間性を養う。
2. 専門の知識・技術を身につけ、課題を解決できる能力を養う。
3. 大学生、異学年、地域との交流やボランティア活動に主体的に関わり、社会人基礎力を身につける。

豊かな人間性

看護師は、多様な価値観を持った対象者に対応するために、豊かな感性を持ち、対象に関心を寄せ、積極的に関わる能力が必要である。そこで、立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生・異学年・地域との交流やボランティア活動を通し、文化や価値観の多様性を理解し、豊かな人間性を養うことをねらいとする。また、他者を尊重し、絶えず相手の立場にたって物事を考え行動する等の倫理観を育成し、更に生徒・学生の成長に伴って向上することをねらいとする。

<活動の概要>

a. 人権教育（1～5年、上山研修は3年のみ）

学校行事である釈尊降誕会花まつりや校父母祭法要、1～5年生の各クラスで行う宗教の授業、3年生を対象とした京都東本願寺における上山研修等を通し、生命や死について考える機会とし、自他共に尊重し、自分の人権及び他者の人権を守ることができる生徒を育成する。計画の段階から、学校行事を企画運営する特活主任や宗教科教員と連携して取り組む。

b. 異学年交流（1～5年）

異学年縦割りグループでは、今年度次の活動を計画している。

- ① 1～3年生交流会
- ② 1年臨地実習前の3年生による身だしなみチェック
- ③ 5年生の指導により1年生が健康教育を実施
- ④ 1～4年生による看護師国家試験を受験する5年生の激励

上記の活動を通し、リーダーシップやメンバーシップを育成する。その結果、チームで働く力（チームワーク）を高めていく。また、自己の目標や果たすべき役割を理解する。

c. APU国際学生との交流（2年）

APU訪問やAPU国際学生を本校に招待し交流することを通し、世界に目を向けるきっかけとする。また、本校の生徒が、国際学生に対して、英語でコミュニケーションを図ることは困難と考える。しかし、積極的に相手を知ろうとする努力や自分を知ってもらうための工夫ができることを期待する。学生の言語によるコミュニケーション能力を向上させるために、英語科教諭に協力を求め取り組んでいく。交流後は、グループ毎に交流の様子や感想を模造紙にまとめ、国際看護を学ぶ5年生に発表し、学びを共有する。また、次年度は、看護学科2年生が中心となり、調理科生徒が集団給食実習で作った昼食と一緒に食べる、製菓コースの生徒が作ったお菓子をお土産に渡す等、他科の生徒も交流したい。

<活動のねらい>

	人権教育	異学年交流	国際学生との交流
1年	「生」と「死」について考え、今を大切に生きることを意識する。自己理解に努める。	相手の意見を丁寧に聴く力及び自分の考えを相手に伝える力を育てる。	
2年	他者理解に努める。また、他者との関わりを通して、自己の振り返りを行い、自己理解	他者を尊重することの大切さや、自分の考えをわかりやすく他者に伝える力を育てる。	APU国際学生と交流を図り、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生の

	を深める。		多様な価値観を知り、他者理解に努める。
3年	他者を尊重するだけでなく、自分自身も大切にすることができる。	リーダーシップをとり、グループ活動を進めることができる。	
4年	生命誕生から死に至るまでの倫理的問題について考え、自分の考えを表出することができる。	意見の違いや立場の違いを理解し、他者と協力して課題に取り組むことができる。	
5年	臨地実習において、倫理観や看護観に基づいた看護を実践する。	最高学年として、リーダーシップを発揮し、下級生に対してモデル行動を示すことができる。	A P U交流での学びを聞き、多様な文化や価値観を知り、他者を尊重し相手の立場にたった行動ができる。

課題解決能力

現在、看護師には、医療の高度化、患者の高齢化・重症化等に対応する質の高いケアを提供し、更に対象者の多様な価値観を尊重しケアに繋がられる能力が求められている。生徒・学生は、主体的に学び、専門の知識・技術を身につけ課題を解決できる能力をつけていかなければならない。

従来の授業は、まず教員が根拠を基に手順を具体的に説明し、演習では初めに教員がデモンストレーションを行い次に学生が実施するという形式で、実際に学生が実施できるのは1回のみという事が多かった。手順は、教科書にわかりやすく示されており、中にはDVDなど動画で確認できるものも出ている。反転授業でまず学生が教科書や動画で十分に手順の予習をしておけば、授業開始時から演習に入ることができ、十分に演習し主体的な学習となり技術の定着を図ることができる。

また現在、臨床現場では、質の高い看護の提供が求められる一方、患者の重症化や権利と安全確保の観点から、学生の看護技術の実習範囲や体験の機会が少なく、見学にとどまることも多い。そこで、実際の医療現場に近い状況を設定し、モデル人形等を用いたシミュレーション演習を行い、自らの演習をビデオカメラやタブレットで撮影し、演習後に互いに振り返り共有する事を通し理解を深めていくというシミュレーション教育で主体的に学ぶ経験を通し、学ぶ楽しさを感じながら目標を持ち段階的に学習をすすめることができると考える。反転授業とシミュレーション教育を活用した授業形態を取り入れ、主体的な学びを促し、一方的ではなく、学生自らが主体的に学んでいくことにより、達成感や自己効力感を持ち、更なる知識及び技術の習得に向けて努力することに繋がる。

反転授業とシミュレーション教育について、まずは図書の利用による授業研究、研修会参加による教員研修を行う。各教員が活用していくことで、生徒・学生が主体的に楽しく学び意欲的になり、専門の知識・技術を身につけ課題を解決できる能力を養うことをねらいとする。また、専門職による特別講義の機会を高校生から持つことにより、専門的な知識技術の学習はもちろん、高校生の早い段階から将来の目標を意識し、主体的学習に繋げ専門的な学習の深化を図りたい。

<活動の概要>

a. 反転授業（1～3年）

事前課題に取り組んだ上で演習を行い、学習を深めることで主体的に学び、専門の知識・技術を身につけ、課題を解決できる能力を養う。

基礎看護技術：清潔援助技術（足浴）/排泄援助技術（浣腸）/与薬（注射法：皮下注射）/

b. シミュレーション教育（2～5年）

医療現場に近い状況を設定したシミュレーション演習を行い、自らの演習を互いに振り返り共有する中で自己の課題を見つけ、状況に応じた対応を思考することを通し主体的に学び、科学的思考に基づき知識・技術を深め、専門性の高い看護判断能力を身につける。

高 校：基礎看護・基礎看護技術

専攻科：基礎看護学・成人看護学・老年看護学・精神看護学・小児看護学・母性看護学・在宅看護論の方法論

c. 特別講義

地域で活躍している専門職の特別講義を受けることにより、自己の目標を明確にし、目標達成に向け意欲的に学習し、専門の知識技術を学ぶ。

1 年：大分県済生会日田病院の感染管理認定看護師より特別講義 - 手指消毒法 -

専攻科：認定看護師（集中ケア、皮膚・排泄ケア、緩和ケア）、看護部長や作業療法士より専門分野について講義を受ける。

d. 教員研修

研修を受講し、授業を改善する。

<活動のねらい>

	反転授業	シミュレーション教育	特別講義
1年	- 足浴 - 反転授業について知り、事前課題に取り組み主体的に演習を行い、楽しく学ぶことを体験する。 タブレットを活用し、撮影した内容を視聴することで振り返ることができる。		特別講義 - 手指消毒法 - 実習病院の感染管理認定看護師の講義を意欲的に受け、消毒の意義や方法を理解し、分かりやすい説明を意欲的に考えることができる。
2年	- 浣腸 - 視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み演習を行う。タブレットを活用して看護技術を振り返り、グループワークで自己の課題を知り、学びを深めることを経験する。	- 基礎看護技術 - 事例より考えられる援助をグループワークで見出し演習を行うことで、状況に合った対応について考えることができる。	
3年	- 皮下注射 - 主体的に事前学習に取り組み演習を行う。タブレットを活用して看護技術を振り返り、グループワークで自己の課題を知り、課題解決に取り組むことができる。	- 基礎看護 - 事例より優先度を考えた援助を実施し、グループワークを通して振り返ることで自己の課題を見つける。また、課題解決に取り組むことができる。	

4年		- 各科目看護過程の展開 - 状況を判断し対象に適した援助について、既習の知識・技術を活用して思考・判断し、課題解決を図る。	特別講義 - 認定看護師・精神障害者のリハビリテーション及び社会資源 - 講義を受け、自己の目標を明確にし、目標達成に向け意欲的に学習し、専門の知識・技術を身につける。
5年			

社会人基礎力

医療の高度化、患者の高齢化・重症化等に対応する質の高いケアを提供し、更に対象者の多様な価値観を尊重しケアに繋がられる看護師が求められている。また、看護師には、協働する看護師や他職種とのコミュニケーション能力、協調性が必要である。一方で、現代社会は、インターネットやスマートフォンの普及・広がりによって、人と直接関わらなくても情報が得られる環境になっている。その結果、様々な人と関わる経験を通して身につけてきたコミュニケーション能力や課題を見つけ取り組む能力が低下している。本校の生徒・学生達においても対人関係の希薄さや生活体験の乏しさが気になる。

経済産業省より、多様な人々とともに仕事をしていくために必要な力と定義される「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の3つの能力と12の能力要素からなる）」が示されている。看護師として働くためには、基礎学力・専門知識技術とそれらを生かす社会人基礎力が必要と考える。高校教育の中で組織的に「社会人基礎力」を育成することにより、自立した看護師の養成を目指す。また、社会人基礎力が備わっている看護師は、自分の職業に誇りを持ち、その結果、離職率の低下に繋がると考える。その為、卒業生の状況も調査していく。

<活動の概要>

a. 特別活動（1～5年）

今年度は、次の活動を計画している。

- ① 1～3年生に対して学年別マナー講習
- ② 1年生の看護への関心を高める工夫として看護者との座談会
- ③ 1～5年生に対して学年別に開催する卒業生との交流会
- ④ 5年生に対して外部講師によるワークライフバランス講座
- ⑤ 地域住民を対象とした健康教育

… 地域住民を対象とした健康教育は、現在、臨地実習や講義の演習で実施しているが、新たに近隣寺院からの要望により、地域住民を対象とした健康教育を寺院で実施する。

* 現在実施している健康教育

	教科	内容
3年	小児看護実習	こども園で、子ども対象に手洗いや歯磨き等の指導。または、レクリエーション実施。
5年	在宅看護論実習	日田市役所で、高齢者に対してインフルエンザ予防等の指導
	教育学	生涯学習の演習で、日田市主催の高齢者教室（咸宜大学）のクラブ活動に参加し、血圧測定実施

上記活動により、様々な人との交流を通し、看護活動の場と看護者の役割を知り、その役割を果たすために必要なマナーを身につけ実行できることを目指す。また、卒業生との交流や特別講座／ワークライフバランスについて講義を受けることで、看護師として働く自分や卒業後の生活をイメージし、目指す将来像に近づく様に日々の生活の中で努力することを期待する。また、学校生活や就職後のストレスに対して、卒業生の対処方法等を聞くことで、ストレスに対応するための手段を知る。その結果、進路変更をする生徒が減少し、現在よりも卒業達成率が上昇することを目指す。

b. ボランティア活動（1～5年）

地域で行われている取り組みに関心を寄せ、学生の段階から地域に貢献できる人材を育成する。そして、チームの中での自己の役割を意識して行動することを目指す。その結果、達成感や自己効力感が高まり、他者を尊重した行動に繋がることを期待する。

日田市は、人口71,050人の地域である。その中で65才以上の高齢者は20,347人、老年人口28.64%となっている（平成24年のデータ）。高齢者の健康に対する意識向上のきっかけ作り及び若者との交流を通して社会参加促進を目的として、5年生が、在宅で生活する高齢者と関わる機会を企画した。来年度は、在宅看護論または老年看護学の講義と関連させて、4年生による日田市内の高齢者宅訪問を計画する。この件について今年度は、準備期間とする。

今年度は、次の活動を計画している。

- ① 1～3年生の縦割りグループ活動 … 6月に計画を立案し、12月までに実施する
- ② 地域の行事に参加 … 日田市観光祭や千年灯り前後の清掃活動、千年灯りの点灯、施設の夏祭り等の行事、あしながPウォーク、障害のある子ども達を対象としたデイサービス、脳性麻痺の子ども達の動作訓練、本校青少年赤十字クラブ主催歳末一人暮らしの高齢者宅へのお餅配布等

<活動のねらい>

	特別活動	ボランティア活動
1年	他者に不快感を与えない様に身だしなみを整え、気持ちのよい挨拶ができる。 ストレスに対して、周囲の人に相談する等対処方法を考える。 第一線で活躍している看護師と交流し看護への関心を高める。	本校三綱領「努力精進、明朗融和、感謝奉仕」を説明し、浸透を図る。 地域で行われている活動を知る。
2年	自ら挨拶することや身だしなみを整えることを、1年次より継続してできる。 ストレスから逃げず、向き合うことができる。 自分の進路について考え、理想とする看護師像を考え表出できる。	ボランティア活動を通して、他者を尊重することの大切さを意識し、自分の果たす役割を考え行動する。
3年	臨地実習を通して、2年次より具体的に理想とする看護師像を考える。また、近づくための努力ができる。 ストレスに向き合い、自ら原因を突き止め取り除く努力や適切な人に支援を求めることができる。 グループで協力して、健康教育やレクリエーションを実施する。終了後は振り返りを行い、良かった点及び改善点を明らかにする。	看護の学びを生かしたボランティア活動を行う。

4年	自己で進路（就職または進学）を決めることができる。そして、進路達成にむけて具体的に取り組むことができる。 ストレスに向き合い、自ら原因を突き止め取り除く努力や適切な人に支援を求めることができる。	状況を配慮した上で、看護の学びを生かしたボランティア活動を行う。
5年	臨地実習において、社会のルールや人との約束を守ることができる。 グループで協力して、健康教育を実施する。終了後は振り返りを行い、改善点を明らかにする。そして、今回は、前回の気づきを繋げ、より改善された健康教育を実施する。 希望する進路に進むことができる。	状況を配慮した上で、看護の学びを生かしたボランティア活動を行う。

評価

a. 豊かな人間性

人権教育・APU国際学生との交流・異学年交流
質問紙調査により、目標の達成度を評価する。

- ①文化や価値観等の多様性を知る。
- ②交流を通し自己理解を深め自己肯定感を得て、他者理解に努めることができる。
- ③チームの中の自己の役割を理解し、他者を尊重した行動ができる。

感想文の内容を分析して学習内容を把握する。

社会人基礎力の「前に踏み出す力/主体性、働きかける力、実行力」「チームで働く力/発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性」、他者理解について自己評価する。

各学年、要素毎に4段階評価、それを点数化して平均点を出し、比較する。

事前、終了後に自己評価を求め、個人及び学年の変化を調査する。

b. 課題解決能力

反転授業・シミュレーション教育・特別講義
質問紙調査により、目標の達成度を評価する。

- ①目的を持って主体的に学習する。
- ②主体的に学習し、自ら考え課題を探究し解決していく。

チェックリストを用いて技術の4段階評価（自己評価・他者評価）

感想文の内容を分析して学習内容を把握する。

事前学習はどの程度どの様に行ったか、事前と学期ごとに調査し、変化を分析する。

授業の満足度や習得度、意欲、主体的な学習について、質問紙調査やインタビューにより評価する。（事前学習との関連について分析する。）

課題を探究し解決しようと努力したか評価する。

社会人基礎力の「考え抜く力/課題発見力、計画性、創造性」について自己評価する。

各学年、要素毎に4段階評価、それを点数化して平均点を出し、比較する。

事前、終了後に自己評価を求め、個人及び学年の変化を調査する。

c. 社会人基礎力

特別活動、ボランティア活動

質問紙調査により、目標の達成度を評価する。

- ①目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動し、自分の役割を果たす。
- ②課題を明らかにし、解決に向けた行動を創造していく。
- ③自分の意思をわかりやすく伝え、周囲との関係を理解し活動していく。
- ④社会のルールや約束を守る。
- ⑤ストレスに対し向き合い解決に努める力、ポジティブに捉える力を身につける。

感想文の内容を分析し学習内容を把握する。

社会人基礎力の「前に踏み出す力／主体性、働きかける力、実行力」「考え抜く力」「チームで働く力／発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力」について自己評価する。

各学年、要素毎に4段階評価、それを点数化して平均点を出し、比較する。

事前、中間、終了後に自己評価を求め、個人及び学年の変化を調査する。

3年生及び5年生が行う健康教育は、他者評価も行う。3年生の場合、指導者が「前に踏み出す力／働きかける力」「チームで働く力／発信力」について評価する。5年生の場合、対象である高齢者に健康教育の内容や学生の態度について感想を求め内容を分析する。

5. 実施体制

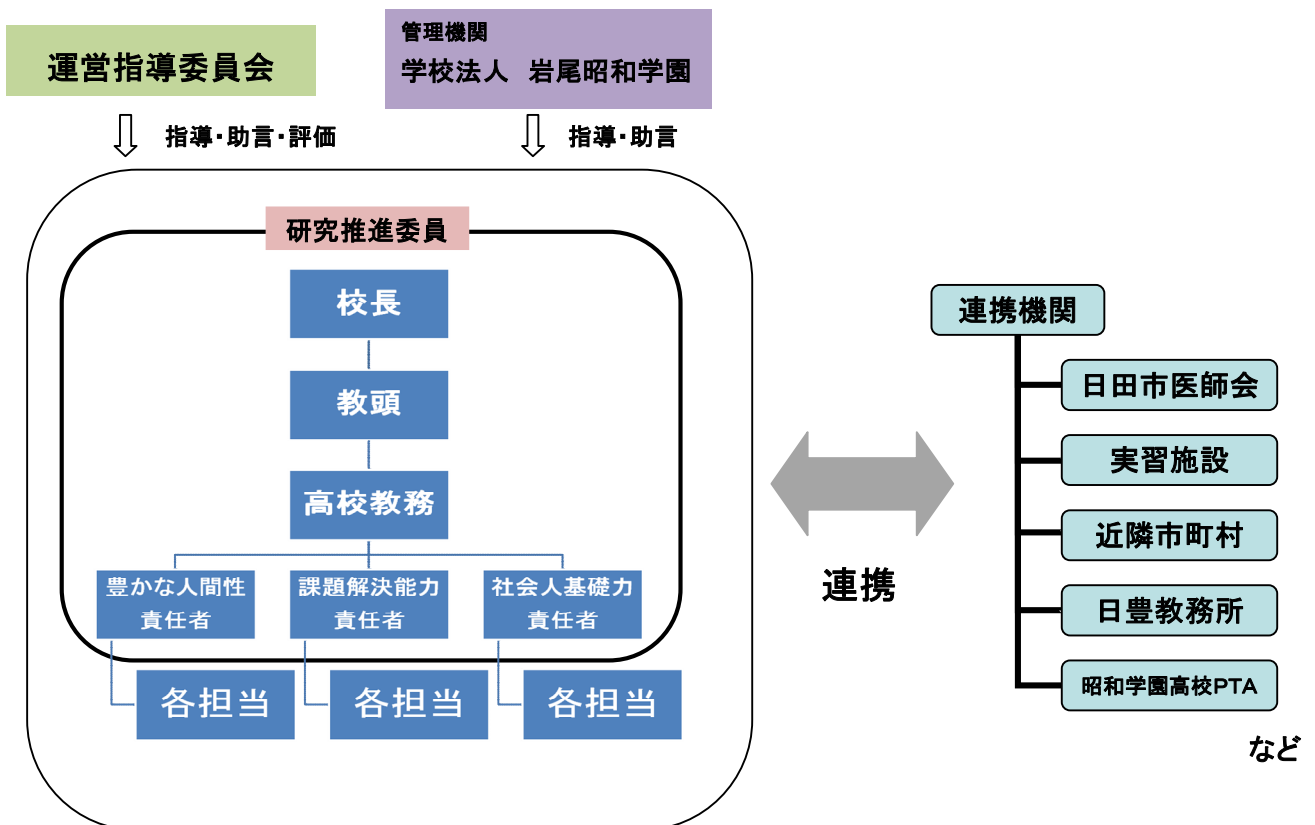


表 1. 研究内容番号

1. 豊かな人間性	①人権教育（校父母祭、上山研修など）
	②異学年交流
	③APU交流
2. 課題解決能力	①反転授業
	②シミュレーション教育
	③特別講義（専門職による講義）
3. 社会人基礎力	①特別活動（マナー講習、ワークライフバランス講座など）
	②ボランティア活動

(1) 研究担当者

氏 名	職 名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
山本 省悟	校 長	SPH事業を総括
岡崎 浩晴	教 頭	理科、校長の補佐、各研究担当教員に指導・助言
石井 裕子	教 頭	看護、研究実務、全研究項目の把握・確認
檜橋 廣行	事務長	経理事務の責任者
五島 英司	特別活動主任	理科、青少年赤十字顧問、1. 豊かな人間性責任者、3-②
松井 由美	基礎課程主任	看護、2. 課題解決能力責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3. 社会人基礎力責任者
佐竹 小桐	教 諭	看護、2年担任、1. 豊かな人間性責任者
五島 忍	教 諭	看護、5年担当、2-②、3-②
小野 晴美	教 諭	看護、5年担当、2-①、3-①
竹井 日登美	教 諭	看護、5年担当、1-②、2-②
武石 千鶴	教 諭	看護、4年担当、2-①、3-②
小野 智恵美	教 諭	看護、3年副担任、3-②
江藤 浩子	助教諭	看護、3年担任、1-②、2-②
田代 あさみ	助教諭	看護、1年担任、1-①、2-①
武内 恵子	助教諭	看護、4年担当、2-②③
武内 和代	助教諭	看護、2年副担任、1-②、2-②
栗野 里美	教 諭	保健体育、1年担任、1-②、3-②
石井 浩之	教 諭	数学、2年担任、1-②、1-③
栗野 暢	教 諭	数学、3年担任、1-①②
立花 圭	2学年主任	英語、1-③
田邊 葉子	教 諭	英語、1-③
穴井 征樹	事 務	高校事務、経理事務
諫山 明美	事 務	専門課程事務、経理事務

(2) 研究推進委員会

氏名	職名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
山本 省悟	校長	SPH事業を総括
岡崎 浩晴	教頭	理科、校長の補佐、各研究担当教員に指導・助言
石井 裕子	教頭	看護、研究実務、全研究項目の把握・確認
檜橋 廣行	事務長	経理事務の責任者
長木 武士	教務主任	理科、全研究項目の把握・確認
五島 英司	特別活動主任	理科、青少年赤十字顧問、1.豊かな人間性責任者、3-②
平 善浩	キャリアガイダンス主任	国語、3-①
吉住 和恵	1年学年主任	理科、1-②、3-②
立花 圭	2年学年主任	英語、1-②③、3-②
春末 聡	3年学年主任	宗教・国語、1-①②、3-②
中川 智法	宗教科主任	宗教、1-①
日野 浩太郎	福祉科主任	福祉、記録・広報
草野 浩輔	教諭	地歴、広報
宇野 真悟	教諭	情報、記録・広報
松井 由美	基礎課程主任	看護、2.課題解決能力責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3.社会人基礎力責任者
佐竹 小桐	教諭	看護、2年担任、1.豊かな人間性責任者

(3) 校内における体制図



(4) 運営指導委員会

氏名	職名	役割分担・専門分野等
徳野 満	大分県生活環境部 私学振興・青少年課長	全般的な指導助言
徳地 喜和子	大分県教育庁高校教育課指導主事	看護専門の指導助言
伊藤 安浩	大分大学教育福祉科学部 教授	評価の指導助言、教育学
矢野 美紀	大分県立看護科学大学 准教授	看護教育指導助言、看護学
荷葉 一浩	真宗大谷派日豊教務所長	豊かな人間性指導助言
渡邊 俊治	日田市医師会長	全般的な指導助言
穴井 千鶴	聖マリア学院大学 学生相談室カウンセラー	豊かな人間性指導助言
甲斐 仁美	大分市医師会立アルメイダ病院 看護部長	社会人基礎力、看護技術指導助言
古賀 ゆかり	大分県済生会日田病院看護部長	社会人基礎力、看護技術指導助言
梅尾 さやか	湯布院病院看護部長	社会人基礎力、看護技術指導助言
平川 美津子	筑後吉井こころホスピタル 副院長・看護部長	社会人基礎力、豊かな人間性指導助言
田中 みとみ	朝倉医師会病院看護部長	社会人基礎力、看護技術指導助言
伊藤 哲司	昭和学園高校PTA会長	保護者の立場から助言

6. 事業内容別実施時期

研究内容	実施時期														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
豊かな人間性	全学年	宗教の授業(1~3年は4~3月、4・5年は4~11月)													
	1年	積尊降誕会花まつり(全校) ナイチンゲール生誕祭	戴帽式	異学年交流	異学年交流			校父母祭法要(全校)	異学年交流						
					実習前チェック				手洗い指導						
	2年				大学と連携				大学と連携 異学年交流						
					APU交流				APU交流 5年発表						
	3年				異学年交流				異学年交流						東本願寺 と連携
4年	1年指導			1年指導						上山研修					
5年				異学年交流		異学年交流		1年指導 2年発表聴講							
課題解決能力	1年	反転授業「基礎看護技術」						病院と連携							
								感染・演習							
	2年	反転授業「基礎看護技術」、シミュレーション教育「基礎看護技術、実習オリエンテーション」													
	3年	反転授業「基礎看護技術」、シミュレーション教育「基礎看護」													
	4年	反転授業「基礎看護技術」、シミュレーション教育「看護学概論、成人看護学・精神看護学・小児看護学・母性看護学・在宅看護論の方法論」						病院と連携							
5年							フィジカルアセスメント、精神障害者のリハビリテーション、緩和ケア、スキンケア講義								
社会人基礎力	1年	地域・実習施設等と連携	縦割りグループ及び個人でのボランティア活動								卒業生と懇談会		看護師国家試験 激励会		
			座談会		マナー講習										
	2年		縦割りグループ及び個人でのボランティア活動												
			マナー講習												
	3年		縦割りグループ及び個人でのボランティア活動												
4年	ボランティア活動(専門課程の花壇の管理、日田市観光祭前後の清掃活動、日田市千年灯り点灯、実習施設の行事等)														
5年	ボランティア活動(専門課程の花壇の管理、日田市観光祭前後の清掃活動、日田市千年灯り点灯、実習施設の行事、近隣寺院で行う健康教育等)														
			ワークライフバランス講義								卒業生と懇談会				

地域・実習施設と連携

- 1年9月老人福祉施設実習
- 2年10月病院実習
- 3年6月こども園実習
- 7~8月病院実習
- 11月老人福祉施設実習
- 4年2月病院実習
- 5年6~11月
病院実習
訪問看護ステーション実習
市役所実習

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

※いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費
別紙1に記載

III 事業連絡窓口等
別紙2に記載